

---

# 勇者と死神

pumpkin

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

勇者と死神

### 【Nコード】

N7316M

### 【作者名】

pumpkin

### 【あらすじ】

勇者は駆ける

人々のため、仲間のため、世界のため

死神は笑う

自分のため、自分のため、自分の……ため

？

ありふれた勇者と可笑しな死神（前書き）

残酷というほどではありませんが（不必要とあらばタグ消します）  
チヨイグロです

ありふれた勇者と可笑しな死神

もう少しだ。

もう少しで全てが変わる！

仲間達の顔も喜色に満ちていた。

そう

もう少しでこの国は狂った軍人どもからの独裁から抜け出せるのだ！

俺たちの手で！

「観念しやがれ！勇者様のお通りだあ！」

剛健で力強い声と共に俺の肩を叩くのは仲間の一人、デイン。

俺と目が合うと頼もしく笑いかけてきたのは、仲間のなかでも随一の美貌の青年

アラン。

他の五人の仲間も俺を見て同時に頷く。

俺たちは完璧に調和しているのを感じた。

立ち向かってくる愚兵を一掃しつつ、先に続く長い階段を減速もせずにより続ける。

国民から搾り取った金で作った調度品を、無慈悲な大臣達を、狡猾な悪女達を俺たちによって消され、この国は今まさに生まれ変わろうとしているのだ。

そしてついに眼前に大きな扉が現われた。  
俺は躊躇う事無く扉を開け放つ！！

そこには……

アイツが、いた。

「HELLO！ナイスてうーミーてうー、ナアんでナア。不法侵入者二言うコトバジャ  
ネえかあ。随分とマア暴れタねえ。人様の領地をここまで荒したあ正義ツーのは  
一体ナンなのか直タニ聞きたイヨ。な、勇者様様様つと」

相変わらず人を小馬鹿にしたような調子こいた金属音のような声と、  
怯えるよう

に長いロッドを抱き締めている態度が不釣り合いの死神。

天窓の豪華なステンドグラスと黒一色の味気ない服を纏いながらも、  
赤や青のペ

イントを施したの道化の仮面をかぶった奴は、場違いなほど対照的  
で、なぜか俺  
の胸が痛んだ。

「おやあまアこりやあホントつに久イイイイいいねエエエ勇者サ  
あま。大ツき

イクなつタモンだあナア？救われエタあ命ヲ無駄にスルたア、何と  
もモツタイない

ネエ。ソンなに死に夕いのカアあい？」

一対八。

俺たちを目の前にしても奴の声は震えるどころか機嫌良さげに高笑いをする。6

年前俺の村を一夜にして消した時と全く変わらない狂気。

そしてこの威圧感。

おどけた言葉とは裏腹にそこら辺の騎士達とは比べものにならない殺気を奴から

感じる。

愛する人を眼前で殺されても、ここまで黒い気を出せる人はまずいないだろう。

「…………アレス」

仲間の誰かが呟いた。

…………まずい

アレスの迫力に皆が押され始めている。

誰も武器を構え切れてさえない。

「俺たちがここにきた理由はわかっているだろうアレス！？俺たちはお前を倒し、

国民を解放させにきた！人々の命を最も食らったお前は、万死に値する！」

俺の宣言に我に返った面々がそれぞれの得物を構えたのを横目で確認しながら、

俺は聖剣を掲げた。

その時

「ねえ……アレス」

緊迫した雰囲気の中、どこからともなくか細い少女の声がした気がした。

「……ンだア、トト。俺にナンかケチ付けンノ？心配するコトナンテア

リヤシねえよ。」

級友に話し掛けるように、アレスがあらぬ方向をむいて呟いた。

「……アレス……。もう……。アレスに殺し、なんてしてほしくないで

す……。どうしてもダメ、なんですか？」

少女が泣きだしそんな声色で言った。

誰だ、どこで喋っている？

俺は振り返って仲間達を見たが、皆首を傾げて見返してくるばかりだ。

「……何言っテンだ。……無理に決まってンダロウ？俺ハ、アレスだ。だから

……。アレスが殺すンだ。お前ハ……。才前は何かしてナイ。」

「……アレス……。私は「サア、始めよツツカアアア勇者様！アレスを、俺

ヲ壊シテ裂いて地に付け殺シテ吊し、晒して笑って碎いて潰して豚ノ餌にしタイ

んだ口オ？」

少女の声をかき消すようにアレスが叫ぶ。

全てを振り切り、何かを庇おうとする、そんな声だった。  
アレスが両手を掲げる。

少女の声は、もうどこからも聞こえない。

「どうシタ？早く殺しにコイよ。行っちゃうよ？アレスたん突っ込んでんジャウよ？」

「・・・エツジ・・・」

アランが俺に呼び掛ける。

「本当にアレが黒幕・・・なんです・・・か？」

俺は答えに詰まる。

だがすぐに我に返り、キツとアランを睨む。

「何言ってるんだ！あいつに俺の妹も、お前の両親も、俺たちの目の前で殺されたのを忘れたのか！俺たちは奴に復讐すると誓い、ここまでやってきたんだろ！」

だが俺の言葉に、彼は首を振った。

「エツジ。私は、絶対に自己満足で人を殺したくないのです。どんなに血塗られた人でも、脅され、操られていただけなら、それを操っていた黒幕こそ私たちの敵。そうでしょう？」



「・・・アラン」

全員が戸惑いを隠せない瞳で互いを見つめる。

しかし、それは死神に背を向けるという、最悪の結果をもたらした。

「あくまで私たちは救世主です。どんな悪であつてもわたじいうぐ  
ああぎいあ

あ!？」

瞬きをした瞬間、アランの首が、消し飛んだ。

思考が停止する

なぜ?という言葉が頭を旋回しつづけるのを止めたのは、金属音の  
ような耳障り  
な哄笑。

「オオオオオ・・・優しいお兄サン?哀れな僕らを助けてくれる  
のカイ?」

誇りを踏み潰された絶望の表情のまま固まった彼の美しい顔と立ち  
代わりに、ア  
レスの白い仮面が俺たちに迫り鎌を掲げる!!

「散らばれ!奴を囲み背を狙え!焦るな慌てるな!」

「サあさア皆様!素敵なショーの始まりダ!誰が何ヲ何の為にどう  
ヤツテ捨て裂キ  
殺し守り助けルカ!そこのお嬢さん、分かるかい!?なあナアなア  
なあアああ!」

「リーリア!!!」

魔導師リーリアの真っ正面に奴の鎌が迫る。

「ひっ……」

後衛の彼女は硬直することしかできない。

だが、これ以上の犠牲者なぞ出ない。

俺が出さない！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7316m/>

---

勇者と死神

2010年10月9日04時26分発行